2012. p.355-62.
4）仲泊　聡．第Ⅴ編：各種障害とそれに対するアプローチ　第5章：各種障害とそれに対するアプローチ視覚機能障害. 上田　敏（日本障害者リハビリテーション協会）監修．標準リハビリテーション医学．第3版．東京：医学書院，2012，p.291-5.
5）仲泊　聡．高齢者の視覚障害の実態とリハビリテーション．長寿科学研究業績集：高齢者の視覚障害とそのケア 2012；平成23年度：161-71.

Ⅴ．その他

1）常岡　寛．白内障手術を理解する．慈恵医大常岡教授招聘勉強会．東京，7月.
2）常岡　寛．おさらいNHKきょうの健康ダイジェスト：目の病気．NHK「きょうの健康」番組制作班，主婦と生活社ライフ・プラス編集部編．NHKきょうの健康：健康ダイアリー：2013年版．東京：主婦と生活社，2012．p.142-3.
3）常岡　寛．白内障の最新治療．新「名医」の最新治療2013：週刊朝日増刊号．東京：朝日新聞出版，2012．p.209-11.
4）常岡寛．理事会だより：学会事業の拡大．IOL&RS 2012；26(4)：516.
5）敷島敬悟．海外文献：Neurology．神経眼科 2012；29(2)：228-30.

耳鼻咽喉科学講座

教　授：森山　　寛	中耳疾患の病態とその手術的治療，副鼻腔疾患の病態及び内視鏡下鼻内手術の開発
教　授：加藤　孝邦	頭頸部腫瘍，頭頸部再建外科，画像診断
准教授：波多野　篤	頭頸部腫瘍の画像診断，手術療法
准教授：小島　博己	中耳疾患の病態とその手術的治療，頭頸部腫瘍の基礎的研究
准教授：鴻　　信義	鼻・副鼻腔疾患の病態と手術的治療
講　師：千葉伸太郎	睡眠時無呼吸症候群の病態生理と治療に関する研究
講　師：飯田　　誠	鼻・副鼻腔疾患の病態と手術的治療，アレルギー疾患の基礎的研究
講　師：松脇　由典	鼻・副鼻腔疾患の病態と手術的治療，頭蓋底疾患の手術的治療，好酸球性炎症の基礎的研究
講　師：谷口雄一郎	中耳疾患の病態とその手術的治療，中耳粘膜の再生医療
講　師：浅香　大也	鼻・副鼻腔疾患の病態と手術的治療，局所免疫応答の基礎的研究
講　師：大櫛　哲史	鼻・副鼻腔疾患の病態と手術的治療，睡眠時無呼吸症候群の病態に関する研究

教育・研究概要

Ⅰ．耳科学領域

中耳粘膜再生の基礎的実験と臨床応用に向けての実験をはじめとして，真珠腫遺残上皮を標的とした遺伝子治療の研究の開発を行っている。特に，現在中耳粘膜再生技術の臨床応用に向けての準備を行っており，真珠腫性中耳炎および癒着性中耳炎に対する粘膜再生技術を応用した新しい手術を行う予定である。また当院で行った真珠腫手術についてのデーターはデータベースに記録され，手術例の病態分析，術式の検討，疫学調査，術後成績などの検討を行っている。難聴担当では代謝異常疾患の内耳生理につ

いて実験動物を用いた研究を行っており，難聴患者の遺伝子解析を信州大との共同研究で行っている。

中耳手術は年間およそ200例が行われておいる。人工内耳手術も各種ディバイスの手術が行われ，特に炎症性疾患を合併した症例が多いのが特徴である。さらに錐体部真珠腫などの病変に対しての頭蓋底手術も脳神経外科との協力のもとに行っており，聴力および顔面神経機能を保存できる症例が近年非常に増加している。

中耳炎および難聴外来では現在8人の参加のもと，毎週月曜日午後に専門外来を設け，術後患者の診察，経過観察およびデーターの管理を主に行っている。患者数も最近は毎週60人を越えている。滲出性中耳炎外来は毎週火曜日午後に行われ，個々の乳突蜂巣の発育程度に応じて治療法の選択を行っている。またチューブ留置期間に関しては経粘膜的なガス交換に伴う中耳腔全圧の変化を測定し，個々の症例に応じたチューブ抜去時期の決定を行っている。

神経耳科領域では，前庭誘発筋電位（VEMP）を取り入れ，球形嚢の機能評価を前庭神経炎，メニエール病，原因不明の浮動性めまい症例等に行い，詳細な診断や治療に役立てている。また疾患別のVEMPによる球形嚢異常の割合やまたメニエール病の発作期と非発作期，病期に応じてのVEMP異常の出現率なども検証している。内リンパ水腫推定検査として，遅発性内リンパ水腫疑い症例にはフロセミド負荷VEMP等も行っている。

内耳性めまいの中で最も多く見受けられるBPPVに対しては赤外線CCDカメラによる眼振検査やENGにより，原因である患側の半規管の同定を行うとともに，半規管結石症に対しては理学療法を施行している。

また中枢性疾患におけるふらつきや偏倚傾向，めまい症状のある症例に対し，神経耳科的精査を行い責任病巣について神経内科医とディスカッションし診断を行っている。

現在は神経内科，放射線医学講座とともに脳血流SPECTを用いたeZIS解析により前庭皮質の局在や前庭系からの大脳皮質への投射の研究をすすめている。

Ⅱ．鼻科学領域

鼻副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻内手術（ESS）の症例および術後経過に関する前向き研究を行っている。ESSは関連病院も併せ，年間1,500例あまりを越え，手術時合併症，術後難治化に関わる因子，嗅覚障害の予後，自覚症状およびQOLの改善度，好酸球性副鼻腔炎また真菌性副鼻腔炎の有病率，などを中心に，詳細な検討を行い国内外の学会，論文に報告している。

頭蓋底疾患（下垂体腺腫，ラトケ嚢胞，頭蓋咽頭腫，鼻性髄液漏，錐体尖部コレステリン肉芽腫症）に対するナビゲーション支援内視鏡下鼻内手術を脳神経外科との協力のもと行っており，症例報告ならびに良好な治療成績を報告している。ナビゲーション手術の問題点であった，手術による構造の変化に対応するために，CT画像の術中リアルタイム更新を全国に先駆けて導入し，その効果と適応について検討している。

ESSの拡大適応と安全性の向上を目指し，立体内視鏡画像とステレオナビゲーションとを重畳表示させるハイテクナビゲーション手術を施行し，問題点・改良点を抽出した。現在，前方斜視鏡下に重畳表示ができるシステムを開発中である。

種々の嗅覚障害患者に対する病態究明と治療方法の開発を行なっている。とくに嗅覚障害者に対するアロマテラピーを用いたリハビリテーションは本邦で初めて試みられている治験であり，その効果が期待されている。

新鮮凍結死体標本を用いた解剖実習をスキルスラボにて継続しており，頭蓋底手術および通常の内視鏡下手術トレーニングを行った。その結果を内視鏡下頭蓋底手術や副鼻腔腫瘍摘出術における手技の改良に反映させた。ネット回線を利用した遠隔医療・遠隔トレーニングシステムの構築を開始した。

好酸球性鼻副鼻腔炎，アレルギー性真菌性鼻副鼻腔炎の病態解明を行う目的で，環境微生物（真菌，黄色ブドウ球菌，ダニ，ゴキブリ）による気道呼吸上皮，ヒト分離好酸球の活性化とそのメカニズムについて基礎的研究を行っている。

スギ花粉による季節性アレルギー性鼻炎，ダニアレルゲンによる通年性アレルギー性鼻炎に対する免疫療法の効果について検討している。

Ⅲ．頭頸部外科学領域

手術の際に摘出した標本からDNAを抽出し，分子標的薬のターゲットとなるEGFRの発現を見て，それらを今後の研究面や臨床面に応用できるような基礎となる研究を行っている。また今後は，中咽頭癌，口腔癌等の発生に関与しているヒト乳頭腫ウィルス（HPV）の発現を調査する臨床研究や癌ワクチン療法の治験等の臨床面，研究面の様々な分野での癌治療に関わる取り組みを行っていく予定である。

現在の当院における頭頸部癌治療の主体としては，①手術②RT（放射線治療）③CRT（放射線化学療法併用療法）である。治療の選択としては，それぞれ各癌の局在，進行度，社会的背景，年齢，Performance Status等のこれらの要因を考慮した上，また頭頸部癌診療ガイドラインに沿った形で決定している。手術における特徴としては，通常の進行癌に対する根治手術（例えば下咽頭癌に対する咽頭喉頭全摘・遊離空腸再建術や喉頭癌に対する喉頭全適術等）を施行しているが，機能温存治療として，可能な症例に対しては特に発生機能温存目的にして，積極的に喉頭温存手術（下咽頭部分切除術・遊離皮弁再建術や喉頭部分切除術）を行い，喉頭温存率，生存率の両面において両行な成績を得ている。保存的療法や進行癌に対する後治療として，RT治療やCDDP・5FU併用によるCRT治療を行い良好な成績を得ている。診断においては，NBI内視鏡を日常診療に用いて，中下咽頭表在癌の診断・治療を行い，早期癌の診断・治療に役立てている。

Ⅳ．音声・嚥下機能領域

声帯ポリープ・ポリープ様声帯・声帯嚢胞に対し，全身麻酔下にマイクロフラップ法を用いたラリンゴマイクロサージェリーを行っている。また，声帯ポリープ，声帯嚢胞などで，入院の上での全身麻酔下手術が困難な症例に対しては，可能な限り，フレキシブルファイバースコープ下での外来日帰り手術を行っている。

喉頭ファイバー及びストロボスコープ所見のみでなく，手術前後の音響分析・空気力学的検査・Voice Handicap Index（VHI）を用いた比較を行うことにより，手術適応及び術式決定ができるよう検討を行っている。

片側性声帯麻痺に対しては，長年アテロコラーゲンの声帯内注入術による外来日帰り手術を行ってきた。アテロコラーゲンの声帯内注入術の限界と考えられる症例に対しては，喉頭枠組み手術を積極的に行っている。

痙攣性発声障害に対し，ボツリヌストキシン注入術を2004年12月より大学倫理委員会の承認のもと行っている。症例は増加傾向にあり，診断・治療に関する臨床的検討を進めるとともに，ボツリヌス治療無効例に対する外科的治療も今後の課題である。

嚥下障害の評価と治療には神経内科リハビリテーション科など他科との連携，および看護師をはじめとするco medicalとのチームワークが重要である。嚥下内視鏡および嚥下造影検査などをもとに症例の評価を行い，治療方針を決定している。

Ⅴ．睡眠時無呼吸症候群領域

アレルギー性鼻炎が睡眠障害に関与しているかどうかを確認するため，花粉症患者に対する臨床研究を，昨年に引き続き太田睡眠科学センターで実施した。

中等症以上のObstructive sleep apnea syndrome（OSAS）に対しては（Continuous positive airway pressure）CPAP治療が第一選択とされる一方で，手術治療はその効果と安全性が疑問視されている。そのため，（Uvulo-Palato-Pharyngo-Plasty）UPPPを代表とする手術治療の適応がどのような症例にあるかについて解析を行った。

我が国におけるPolysomnography（PSG）の普及は十分でなく，とりわけ小児のOSASの診断に対してPSGが実施されるケースは極めて少ない。そのかわり，小児のOSASに対しては睡眠中のビデオ録画が広く行われている。そのため，PSGと睡眠中のビデオ録画を同時に行って両者の相関を求め，小児睡眠呼吸障害に対する検査のガイドラインを作成することを試みた。

2009年より導入している遠隔睡眠検査は，医療環境が十分でない施設において非常に有用であるため，現在も太田睡眠科学センターで継続して行っている。

「点検・評価」

文部科学省の科学研究費補助金は，過去最多の合計15課題（基盤研究7課題，若手研究7課題，研究活動スタート支援1課題）が採択された。これらの研究費補助金を基に研究を遂行し，論文投稿や研究発表など例年以上に多くの研究業績を残すことができた。また，1月に第一ホテル東京にて第10回側頭骨疾患研究会を主催した。この研究会を主催したことにより，新たな多施設共同研究を見出すことができた。

耳科領域の手術に関しては中耳疾患のみでなく側頭骨錐体尖部病変，頭蓋底病変，内耳道病変に対する手術手技の工夫や成績の評価を行った。鼻科領域の手術においても内視鏡下鼻内手術の術式の適応拡大を行い，眼窩底骨折，下垂体手術，鼻・副鼻腔腫瘍や頭蓋底病変なども対象疾患としえた。頭頸部腫瘍領域では，血管内治療（Interventional radiology：IVR）の頭頸部癌への応用を行うとともに，化学療法同時併用放射線療法を行い，機能温存を図る工夫も行っている。喉頭・音声領域では日帰り手術

としての喉頭疾患への手術の確立を目指している。反回神経麻痺に対するアテロコラーゲン注入術の症例数も増え成績も安定している。また，痙攣性発声障害に対するボツリヌス toxin 注射も良好な症状改善が認められている。睡眠時無呼吸においては，精神神経科，呼吸器内科，歯科などと総合的な診断と治療を行うため，専門外来と PSG のための専用ベッド（２床）が稼働している。現在は，特に顎顔面形態について画像処理を行い，軟組織と骨組織の点から分析や，鼻閉が睡眠時の無呼吸に及ぼす影響の検討を行っている。

研　究　業　績

Ⅰ．原著論文

1）Tsukidate T, Haruna S, Fukami S, Nakajima I, Konno W, Moriyama H. Long-term evaluation after endoscopic sinus surgery for chronic pediatric sinusitis with polyps. Auris Nasus Larynx 2012 ; 39(6) : 583-7.

2）Asaka D, Yoshikawa M, Nakayama T, Yoshimura T, Moriyama H, Otori N. Elevated levels of interleukin-33 in the nasal secretions of patients with allergic rhinitis. Int Arch Allergy Immunol 2012 ; 158(Suppl.1) : 47-50.

3）Okushi T, Mori E, Nakayama T, Asaka D, Matsuwaki Y, Ota K, Chiba S, Moriyama H, Otori N. Impact of residual ethmoid cells on postoperative course after endoscopic sinus surgery for chronic rhinosinusitis. Auris Nasus Larynx 2012 ; 39(5) : 484-9.

4）Udagawa T, Tatsumi N, Tachibana T, Negishi Y, Saijo H, Kobayashi T, Yaguchi Y, Kojima H, Moriyama H, Okabe M. Inwardly rectifying potassium channel Kir4.1 is localized at the calyx endings of vestibular afferents. Neuroscience 2012 ; 215 : 209-16.

5）Nakayama T, Asaka D, Yoshikawa M, Okushi T, Matsuwaki Y, Moriyama H, Otori N. Identification of chronic rhinosinusitis phenotypes using cluster analysis. Am J Rhinol Allergy 2012 ; 26(3) : 172-6.

6）Nakayama T, Asaka D, Okushi T, Yoshikawa M, Moriyama H, Otori N. Endoscopic medial maxillectomy with preservation of inferior turbinate and nasolacrimal duct. Am J Rhinol Allergy 2012 ; 26(5) : 405-8.

7）Okano S, Tahara M, Zenda S. Induction chemotherapy with docetaxel, cisplatin and S-1 followed by proton beam therapy concurrent with cisplatin in patients with T4b nasal and sinonasal malignancies. Jpn J Clin Oncol 2012 ; 42(8) : 691-6.

8）Suda T, Hama T, Kondo S, Yuza Y, Yoshikawa M, Urashima M, Kato T, Moriyama H. Copy number amplification of the PIK3CA Gene is associated with poor prognosis in non-lymph node metastatic head and neck squamous cell carcinoma. BMC Cancer 2012 ; 12 : 416.

9）Usami S, Abe S, Nishio S, Sakurai Y, Kojima H, Tono T, Suzuki N. Mutations in the NOG gene are commonly found in congenital stapes ankylosis with symphalangism, but not in otosclerosis. Clin Genet 2012 ; 82(6) : 514-20.

10）Kiyota N, Tahara M, Okano S. Phase II feasibility trial of adjuvant chemoradiotherapy with 3-weekly cisplatin for Japanese patients with post-operative high-risk squamous cell carcinoma of the head and neck. Jpn J Clin Oncol 2012 ; 42(10) : 927-33.

11）小島博己，谷口雄一郎，山本和央，近澤仁志，中条恭子，小森　学，森山　寛．錐体部真珠腫における手術的アプローチ法の検討．耳鼻展望 2012；55(2)：84-91.

12）飯田　誠，浅香大也，大櫛哲史，中山次久，吉川　衛，鴻　信義．アレルギー性鼻炎と喘息を合併した慢性副鼻腔炎手術症例の検討　自覚症状と画像所見の見地から．耳鼻展望 2012；55(3)：155-9.

13）内水浩貴，小林俊樹，森　恵莉，山田裕子，柳　清．過去５年間の頸部リンパ節腫脹に対する検討．日耳鼻会報 2012；115(5)：546-551.

14）飯村慈朗，千葉伸太郎，渡邊統星，山本耕司，新井千昭，宇野匡祐，太田史一，鴻　信義．鼻科領域における Short endoscope（Semi-rigid 型）の使用経験．耳鼻展望 2012；55(5)：383-5.

15）清野洋一，飯野　孝，青木謙祐，石田勝大，濱　孝憲，岡野　晋，須田稔士，長岡真人，牧野陽二郎，波多野篤，加藤孝邦．下咽頭癌喉頭温存手術症例における再発症例の検討．頭頸部癌 2012；38(4)：420-4.

16）吉田隆一，谷口雄一郎，田中康広，志和成紀，小島博己，森山　寛．外傷性直達性耳小骨損傷症例の検討．耳鼻展望 2012；55(6)：425-33.

17）近澤仁志，谷口　洋，山崎ももこ，八代利伸，石井正則．前庭神経炎急性期における SPECT を用いた脳血流の解析．Equilibrium Res 2012；71(2)：71-7.

18）近澤仁志，谷口　洋，山崎ももこ，八代利伸，石井正則．前庭神経炎症例における脳血流の経時的変化の検討．耳鼻展望 2012；55(6)：410-6.

19）吉田拓人，浅香大也，中山次久，大櫛哲史，鴻　信義．片側性副鼻腔炎の自覚症状についての検討．耳鼻展望 2012；55(6)：434-9.

20）力武正浩，加我君孝．脊髄髄膜瘤と難聴　二分脊椎患者における難聴との検討．耳鼻展望 2012；55(4)：

212-7.
21）力武正浩，小島博己，森山　寛，加我君孝．難聴を伴う重複障害児の変遷と現況　現在における問題点を中心として．耳鼻展望 2012；55(6)：417-24.
22）會田小百合，谷口雄一郎，吉川　衛，田中康広，小島博己．鼻中隔矯正術施行後に発症したと思われる中鼻甲介頭痛症候群の１症例．耳鼻展望 2012；55(3)：172-7.
23）會田小百合，飯野　孝，小島博己．副鼻腔悪性リンパ腫１症例の経験．耳鼻展望 2012；56(1)：25-30.
24）小森　学，小島博己，森山　寛，高尾洋之．耳鼻咽喉科診療における iPhone を用いた遠隔画像診断・治療補助システム．耳鼻展望 2012；55(5)：298-301.
25）志村英二，飯野　孝，高橋昌寛，西嶌嘉容，荒井　聡，小島純也，吉田拓人，飯田　誠．術後早期に肺，骨転移をきたし不幸な転帰を辿った喉頭軟骨肉腫の１症例．耳鼻展望 2012；55(4)：218-22.
26）山田裕子，内水浩貴，森　恵莉，柳　清．早急な対応により救命し得た胸部大動脈瘤に起因した反回神経麻痺の２症例．耳鼻展望 2012；55(5)：279-84.
27）茂木雅臣，杉本直基，山本和央，青木謙祐．急性中耳炎から硬膜外膿瘍をきたした小児の１症例．耳鼻展望 2012；55(5)：291-7.
28）石垣高志，谷口雄一郎，小島博己，森山　寛，田中康広．中耳より発症した inverted papilloma の１症例．耳鼻展望 2012；55(4)：235-40.
29）中上桂吾，松脇由典，大村和弘，森　恵莉，森　良介，常喜達也，森山　寛．術中画像更新をオプションとしたナビゲーション手術が有用であった蝶形骨洞大翼嚢胞の２例．耳鼻展望 2012；55(3)：160-6.
30）栗原　渉，大村和弘，森　良介，常喜達裕，海渡信義，松脇由典．有茎鼻中隔粘膜弁による頭蓋底再建が有用であった多発性外傷性髄液漏の１症例．耳鼻展望 2012；55(3)：183-8.

Ⅱ．総　　説

1）柳　清．【真菌とアレルギー・炎症】アレルギー性真菌性鼻副鼻腔炎の特徴．アレルギー免疫 2012；19(7)：1088-96.
2）小島博己．【最新の診療 NAVI　日常診療必携】 炎症・感染症診療 NAVI 中耳炎．耳鼻・頭頸外科 2012；84(5)：179-84.
3）小島博己，斎藤ももこ，櫻井結華，小宮　清．【耳科教育－若手の育て方】当教室における耳科手術に関する卒後教育の工夫 「技術の可視化」の試み．Otol Jpn 2012；22(2)：107-14.
4）鴻　信義．【耳鼻咽喉科手術におけるナビゲーションとモニタリング】鼻・副鼻腔．耳鼻・頭頸外科 2012；84(6)：360-6.
5）鴻　信義．【最新の鼻・副鼻腔疾患診療】内視鏡下鼻・副鼻腔手術の進歩と適応拡大．日医師会誌 2012；141(10)：2203-6.
6）松脇由典．好酸球性副鼻腔炎の手術療法と術後治療．日鼻科学会誌 2012；51(1)：48-50.
7）高柳博久，石垣高志．【診療所における嚥下内視鏡検査の実際】NST（Nutrition Support Team；栄養サポートチーム）における嚥下内視鏡検査の役割．ENTONI 2012；147：39-43.
8）濱　孝憲，山本和央，谷口雄一郎，小島博己．患者まで届いている再生医療難治性中耳炎に対する粘膜上皮細胞シート移植．再生医療 2012；11(4)：367-71.
9）中山次久，春名眞一．【図でみる免疫学の ABC】免疫と耳鼻咽喉科関連疾患の病態　アレルギー性真菌性副鼻腔炎．JOHNS 2013；29(3)：511-5.
10）露無松里，加藤孝邦．【診療所における嚥下内視鏡検査の実際】嚥下内視鏡検査の概要．ENTONI 2012；147：1-7.

Ⅲ．学会発表

1）Kojima H.（Mini lectures of recent topics）8.Middle ear regeneration of grafting of epithelial cell sheet. 9th International Conference on Cholesteatoma and Ear Surgery. Nagasaki, June.
2）Kojima H. Endoscopic stapes surgery. EES hands on-Seminar in Yamagata. Yamagata, June.
3）Otori N.（ENT11：Medicolegal Aspects of Endoscopic Sinus Surgery：Errors, Wrongful and Criminal Acts）Skull base complications：Management, errors, wrongful and criminal acts. 5th World congress for Endoscopic Surgery of the Brain, Skull Base & Spine. Vienna, Apr.
4）Otori N. Endoscopic repair of the orbital wall fractures. 15th Asian Research Symposium in Rhinology. Singapore, May.
5）Otori N. Pearls and pitfalls in endoscopic frontal sinus surgery. 15th Asian Research Symposium in Rhinology. Singapore, May.
6）Otori N. Endoscopic frontal surgery. 24th European Rhinologic Society & 31st International Symposium on Infection and Allergy of the Nose. Toulouse, June.
7）Otori N. Revision surgery for CRS -Pearls and pitfalls-. 24th European Rhinologic Society & 31st International Symposium on Infection and Allergy of the Nose. Toulouse, June.
8）Otori N. Development of high-tech navigation system in endoscopic skull-base surgery. 2012 First SNU-TJU Endoscopic Skull Base Symposium. Seoul, Sept.

9）Otori N. Endoscopic frontal sinus surgery -key points for safe and proper operation-. 34th Advanced Endoscopic Sinus Surgery Course. Beijing, March.

10）OkushiT, Otori N, Yoshikawa M, Matsuwaki Y, Asaka D. Endoscopic endonasal surgery of postoperative maxillary cysts using mucoperiosteal flap technique. 24th European Rhinologic Society & 31st International Symposium on Infection and Allergy of the Nose. Toulouse, June.

11）Iimura J, Chiba S, Watanabe S, Yamamoto K, Arai C, Yoshikawa M, Ota F. Analysis of sleep disorder in chronic rhinosinusitis patients. 24th European Rhinologic Society & 31st International Symposium on Infection and Allergy of the Nose. Toulouse, June.

12）Udagawa T, Tatsumi N, Kobayashi T, Rikitake M, Yaguchi Y, Kojima H, Moriyama H, Okabe M. Neural crest cells invade the otic vesicle derived epithelium. 35th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan. Fukuoka, Dec.

13）Yoshida T, Okushi T, Nobuyoshi , Mamoru Yoshikawa M, Yoshinori Matsuwaki M, Asaka D, Nakayama T, Hiroshi Moriyama H. Evaluation of wound healing with calcium alginate after endoscopic sinus surgery. 24th European Rhinologic Society & 31st International Symposium on Infection and Allergy of the Nose. Toulouse, June.

14）Rikitake M, Sakata H, Moriyama M, Kaga K. Chromosome abnormality and hearing disorders in children. 14th Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery. Kyoto, April.

15）Nakayama T, Otori N, Haruna S, Kuboki A, Moriyama H. Measurement of mucociliary activity using endomicroscopy in the human nose. 15th Asian Research Symposium in Rhinology. Singapore, May.

16）Nakayama T, Okushi T, Asaka D, Yoshikawa M, Haruna S, Moriyama H, Otori N. Endoscopic modified medial maxillectomy for the odontogenic maxillary cysts and tumors. 24th European Rhinologic Society & 31st International Symposium on Infection and Allergy of the Nose. Toulouse, June.

17）Nakayama T, Okushi T, Asaka D, Haruna S, Moriyama H, Otori N. Polyp recurrence rate in chronic rhinosinusitis phenotypes. 2012 AAO-HNSF（American Academy of Otolaryngology-Head and Neck Surgery Foundation）Annual Meeting & OTO Expo. Washington,D.C., Sept.

18）Suda T, Hama T, Seino Y, Urashima M, Yuza Y, Kato T, Moriyama H. Copy number amplification of the PIK3CA gene is associated with poor prognosis in early-stage head and neck squamous cell carcinoma. AACR（American Association for Cancer Research）103rd Annual Meeting 2012. Chicago, Apr.

19）Komori M, Takao H, Kojima H, Yaguchi Y, Moriyama H. Clinical support system in using iPhone as remote image diagnostic -for otorhinolaryngology-. 9th International Conference on Cholesteatoma and Ear Surgery. Nagasaki, June.

20）Arai C, Iimura J, Wada K, Moriyama H, Edamatsu H. Clinical correspondence of the Churg-Strauss Syndrome for otorhinolaryngologist. AACR（American Association for Cancer Research）103rd Annual Meeting 2012. Chicago, Apr.

Ⅳ．著　　書

1）小島博己．第１章：耳編　外耳道真珠腫，閉塞性角化症．浦野正美（浦野耳鼻咽喉科医院），小林俊光（東北大学），髙橋晴雄（長崎大学）編．ENT 臨床フロンティア：耳鼻咽喉科の外来処置・外来小手術．東京：中山書店，2012．p.35-9.

2）鴻　信義，大櫛哲史．第２章：鼻編　Column：Balloon sinuplasty．浦野正美（浦野耳鼻咽喉科医院），小林俊光（東北大学），髙橋晴雄（長崎大学）編．ENT 臨床フロンティア：耳鼻咽喉科の外来処置・外来小手術．東京：中山書店，2012．p.120-1.

3）鴻　信義．第３章：頭頸部の前癌病変　鼻・副鼻腔乳頭腫．岸本誠司（東京医科歯科大学），小林俊光（東北大学），髙橋晴雄（長崎大学），浦野正美（浦野耳鼻咽喉科）編．ENT 臨床フロンティア．がんを見逃さない－頭頸部癌診療の最前線東京：中山書店，2012．p.58-66.

4）加藤久美（太田総合病院），千葉伸太郎．Ⅶ．小児の睡眠呼吸障害の影響　1．認知機能・発達の問題．宮崎総一郎（滋賀医科大学），千葉伸太郎，中田誠一（藤田保健衛生大学）編．小児の睡眠呼吸障害マニュアル．東京：全日本病院出版会，2012．p.109-13.

5）力武正浩，加我君孝[1]．第Ⅱ部：臨床応用　２．内耳疾（感音難聴）４）脳性麻痺．加我君孝[1]（[1]東京大学）編．新生児・幼小児の耳音響放射と ABR：新生児聴覚スクリーニング，精密聴力検査，小児聴覚医学，小児神経学への応用．東京：診断と治療社，2012．p.106-11.

Ⅴ．そ の 他

1）小島博己．名医はこの人　ブラックジャックを探せ．夕刊フジ 2012.7.13（20 面）.

2）小島博己．難治性中耳炎の再発を防ぐ「粘膜再生治療」に期待．週刊ポスト 2012；9/14：92.

3）鴻　信義．鼻の病気１：アレルギー性鼻炎．日本経

済新聞 2012.6.12.
4）鴻　信義．なんでも健康相談：耳鼻咽喉科　好酸球性副鼻腔炎について教えて下さい．きょうの健康：NHK テレビテキスト 2012；6：128.
5）近澤仁志．突然襲われる“めまい”最新検査と治療法．日本テレビ　スッキリ!! 2012.11.5.

麻 酔 科 学 講 座

教　授：	上園　晶一	小児麻酔，心臓血管外科麻酔，肺高血圧の診断と治療
教　授：	近江　禎子（外）	区域麻酔
教　授：	下山　直人（外）	がん性痛の機序の解明と治療法の開発（臨床，基礎研究）
准教授：	木山　秀哉	静脈麻酔，困難気道管理，麻酔中の脳波，周術期危機管理，麻酔を支える自然科学
准教授：	瀧浪　將典	安全管理，モニター，集中治療
准教授：	北原　雅樹	疼痛管理
准教授：	藤原千江子（派）	呼吸，モニター
准教授：	近藤　一郎	脊髄における疼痛機序，術後疼痛管理
准教授：	三尾　　寧	麻酔薬の臓器保護作用
准教授：	内野　滋彦	集中治療，急性腎傷害，血液浄化
准教授：	讃井　將満	集中治療全般
講　師：	松本　尚浩	麻酔，患者安全教育
講　師：	谷口　由枝	周術期における体温管理，周術期麻酔管理におけるアウトカムリサーチ
講　師：	庄司　和広	術後疼痛管理
講　師：	鹿瀬　陽一	集中治療，エンドトキシン，蘇生教育，シミュレーション医学教育
講　師：	肥田野求実	局所麻酔
講　師：	久保田敬乃	局所麻酔，緩和医療
講　師：	須永　　宏	筋弛緩薬

教育・研究概要

Ⅰ．手術麻酔部門

1．術中低体温はシバリング，周術期出血量の増加，創感染の発症率を上昇させることが知られている。腹腔鏡下手術における prewarming の効果を検討した臨床研究を行い，prewarming 群では，術中の体温低下が軽減され，手術直後のシバリングが生じないことを立証した。今後は，シバリングを生じた症例の後ろ向き研究からその危険因子を探索する予定である。さらに，加温加湿装置の使用による術中体温維持法など，より良い体温管理を目指した臨